



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

小さな好きから 大きな夢中へ ミュージアムパーク

A・MUSEUM

【ア・ミュージアム】

2025.6.15

vol.117

白亜紀の森



白亜紀の海



CONTENTS

- 1 企画展紹介 恐竜とともに生きた生物たち
— ぼくらは脇役じゃない —
- 2 特集 博物館職員の活動日記⑦／館長コラム
- 3 研究報告1 ハナバチと植物の関係
／MCの小さな発見
- 4 研究報告2 逢善寺茅場の植物
／おさかな通信
- 5 なるほど博物館／収蔵品紹介
- 6 トピックス
- 7 いちおしトピックス！／今後の企画展紹介

古生物学者はさまざまな化石を研究し、大昔の生物が生きた当時の景色を復元しようと試みています。ここで示すような景観図をつくるには、アーティストの協力も欠かせません。

(イラスト：ツク之助)

第92回
企画展

恐竜とともに生きた生物たち

— ぼくらは脇役じゃない —

Spotlight on various creatures coexisted with dinosaurs -enjoy dinosaurs in permanent exhibition-

会期／2025年7月5日(土)～2025年9月15日(月・祝)

ほん き かくてん きょうりゅう じ だい しょうかい
本企画展では、恐竜時代のさまざまな“恐竜じゃない生物”をご紹介します。

恐竜時代にはどんな植物が生えていたのでしょうか？ 恐竜以外にはどんな動物が生きていたのでしょうか？

恐竜が主役となる展示ではなかなか紹介されないマニアックな化石をたくさん展示します！

“恐竜じゃない生物”の不思議や魅力を味わいながら、新たな視点で恐竜時代の世界をのぞいてみましょう。

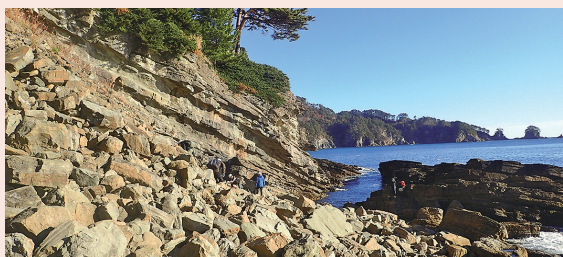
(資料課 加藤太一)

序章

化石の発掘から研究、そして

化石の発掘や研究の方法を紹介！

研究者になったつもりで写真を撮れるスペースがあるよ。



化石の発掘調査のようす(協力:岩手県立博物館)

第1章

恐竜時代の植物

いろいろな種類の植物化石が見られるよ！

植物化石の分類にチャレンジしてみよう！



ザミテス(ペネテテス類)の葉の化石

第2章

恐竜時代の陸上の動物

昆虫類、両生類、哺乳類、ワニ類や翼竜類など、さまざまな“恐竜じゃない”動物の化石が見られるよ！



ディデルフォドン(哺乳類)の全身骨格

第3章

恐竜時代の海の無脊椎動物

恐竜時代の海にはどんな無脊椎動物がいたのかな？
実物の化石に触れるコーナーがあるよ！



ディディモセラス(アンモナイト類)



トリゴニア(二枚貝類)

第4章

恐竜時代の海の脊椎動物

恐竜時代にはどんな水生爬虫類や魚がいたのかな？
現在生きているなかまの剥製と化石を比べてみよう！



エンコーダス(硬骨魚類)

第5章

恐竜時代の生痕化石

巣穴やうんちの化石(生痕化石)から何がわかるの？
古生物の生活のようすを探るヒントを見つけよう！



アーケオゾステラ(海底生物の巣穴+うんちの化石)

初夏のある日、博物館の野外を歩いていると、この場所では聞きなれない美しい鳥のさえずりが聞こえてきました。「どこから聞こえてくるんだろう？」ドキドキしながら鳴き声を頼りに歩き回り、生い茂る枝の間に目を凝らして探すと、ようやくその鮮やかな姿が見えました。キビタキです。日本には繁殖のために渡ってくる夏鳥です。県内では筑波山などで観察することがありましたが、私自身は博物館野外で確認したのは初めてでした。気が付いていないだけで、自分が思っているよりもさまざまな鳥たちが野外の環境を利用しているのかもしれないと感じたことを覚えています。

当館には広大な野外施設があり、隣接する菅生沼へも遊歩道で快適に歩いて行くことができます。来館者が徒歩で行ける範囲に樹林・水辺・湿地などのさまざまな環境があり、四季折々のさまざまな生きものを観察できることは、当館の大きな魅力の一つです。

このような立地環境を生かして、私は博物館野外と菅生沼周辺を調査地として、どのような鳥が利用しているか定期的に調べてみることにしました。まず、博物館野外と菅生沼遊歩道にそれぞれ調査コースを設定しました。調査は鳥の活動が活発で観察がしやすい早

朝に行いました。コース上をゆっくり歩きながら、目視と鳴き声の聞き取りによって確認できた種と個体数をすべて記録して이었습니다。

2023年11月から2024年10月までの1年間、毎月それぞれ2回ずつ調査を行った結果、博物館野外では48種（外来種2種を含む）、菅生沼周辺では72種（外来種2種を含む）の鳥が確認されました。特に印象的だったのは日本最小の鳥の一種であるキクイタダキが博物館野外で観察されたことです。この鳥は繁殖期は標高の高い山地に生息していますが、越冬期には標高の低い場所にも移動してくることがあります。発見時、あまりに小さい体でちょこまかと動くその姿は、まるで何かの昆虫のようでなかなか視界にとらえることができませんでしたが、和名の由来でもある菊の花びらのような黄色い模様が頭部に見えたときの嬉しさは格別でした。

日々の調査で得られた結果や気づきは、今後の観察会やネイチャーガイドなどのイベント、企画展などを通して来館者のみなさんに伝えていきたいと考えています。

（教育課 佐野拓哉）



キビタキ



キクイタダキ

館長コラム

by director Yokoyama



県外での広報活動の充実

当館の魅力を多くの人たちに知ってもらうため、茨城県内をはじめ、比較的当館に近い県外地域でも広報活動を行っています。しかし、東京・千葉・埼玉に向けた広報活動は、費用負担が大きいことから、限られた範囲でしか実施できていませんでした。

そのような状況の中、今から約2年前に、東京の秋葉原で「ミニ移動博物館」というミニ展示による広報活動の機会がありました。限られたスペースではありましたが、4日間当館の標本などの資料を多くの方々にご覧いただきました。

また、その年に開催していた企画展「うち無しでは生きられない」に興味をもってくださった方から、「同じ内容で特別展を行いたいので協力してほしい」とのお話をいただきました。展示場所は東京ドーム隣接の会場であり、東京の中心部で当館の魅力を発信できる絶好の機会と考え、お引き受けしました。この特別展は、3月18日から5月18日までの会期で開催されました。

これらの展示を見て、当館を初めて知ってくださった方も多く、来館に繋がったケースもありました。多くのリピーターに支えられている当館ですが、新しく来てくださるお客様も大切にしたいと思っています。

当館は昨年度、開館30周年を迎え、年間48万人近いお客様にご来館いただきました。これからも多くのお客様にお越しいただくため、当館の魅力を県内外に広く発信していきたいと思っています。



ハナバチと植物の関係

当館では、2024年に「茨城県産昆虫目録」を刊行し、県内の昆虫類515科9,568種を記録することができました。この調査の過程で、特にハナバチ（花蜂）について、植物とのかかわりについて調査を進めてきましたので、その一端を紹介しましょう。

ハナバチは、幼虫の餌として花粉や花蜜を集めて蓄える習性をもつハチ類です。ニホンミツバチなどはよく知られていますが、茨城県で記録されている185種のほとんどは、馴染みがないかもしれません。この研究ではハナバチの定期採集を県内7カ所で行い、6科132種9,698個体のハナバチを採集しました。そして、どのハチがどの植物に訪れていたかの記録を取り続けたので、ハナバチと植物との関係が少しずつ見えてきました（詳細は「茨城の昆虫たち」（2025年当館刊）、博物館研究報告などを参照）。

採集したハナバチの個体数を見てみましょう。多い順に並べると表のようになりました。一方、ハナバチがどんな植物に訪れていたのか見ると、セイタカアワダチソウ（1,062個体）、ウツギ（512個体）、セイヨウタンポポ（500個体）などに多くのハナバチが訪れ

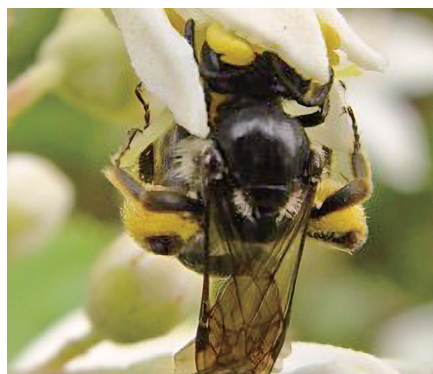
表.採集されたハナバチの上位10種の個体数

科名	種名	個体数	相対百分率
コハナバチ	ニジイロコハナバチ	1,358	14.0
ミツバチ	トラマルハナバチ	705	7.3
ミツバチ	ニホンミツバチ	587	6.1
ムカシハナバチ	アシブトムカシハナバチ	480	4.9
ミツバチ	ヤマトツヤハナバチ	428	4.4
ヒメハナバチ	キバナヒメハナバチ	412	4.2
ミツバチ	コマルハナバチ	340	3.5
ハキリバチ	ツルガハキリバチ	261	2.7
ヒメハナバチ	コガタウツギヒメハナバチ	256	2.6
コハナバチ	シロスジカタコハナバチ	253	2.6
その他のハナバチ		4,618	47.6
合計		9,698	100.0

ていました。

少し見方を深め、植物を訪れた種数・個体数も要素に入れて、ウツギとハナバチの関係を見てみましょう。ウツギには、4科27種512個体のハナバチが訪れました。そのうちコガタウツギヒメハナバチ（249個体）とウツギヒメハナバチ（155個体）が全体の約8割を占めました。ウツギには、おもに特定のハナバチが訪れていたことがわかります。一方、コガタウツギヒメハナバチの97%（256個体のうち249個体）、ウツギヒメハナバチの100%（155個体）が、ウツギに訪花していたことから、これらヒメハナバチにとってウツギは、欠かせない植物といえることがわかりました。ウツギの開花期は長くないので、特定のハナバチと強い関係をもつようになったと思われます。同じように出現期間の短いこれらのヒメハナバチは、訪れる花を決めておくことで、効率的な採餌を行うことができると考えられます。

調査を通して、ハナバチと植物の密接な関係が見だされてきました。ところで、2024年は猛暑に見舞われました。温暖化の影響で、ハナバチの出現期や植物の開花期がずれることもあるでしょう。ウツギに頼っているヒメハナバチは、これらの変化に対応できるでしょうか？小さなハナバチから、地球規模の環境変化を憂えています。（資料課 久松正樹）



ウツギヒメハナバチ



ミュージアムコミュニケーター

MCの小さな発見

オキナグサを知っていますか？

オキナグサとは、キンポウゲ科オキナグサ属の毒をもつ多年草で、日当たりの良い草原で見られます。漢字では「翁草」と書くのですが、この「翁」には、お爺さんという意味があります。花の状態ではその由来がよくわかりませんが、花の後にできる果実の表面に白く長い毛が生えており、これがお爺さんの白髪やあご髭に見えることからこの名前がついたといわれています。

そんなオキナグサですが、近年全国的に個体数が減少しており、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種、茨城県版レッドデータブックでは絶滅危惧IA類に指定されています。減少のおもな理由は、生育地の開発や破壊などによる環境の変化であるとされています。

第5展示室では、オキナグサを含むさまざまな絶滅危惧種を実物の標本で紹介しています。ぜひ、じっくり観察してみてください。

（ミュージアムコミュニケーター 小野田裕介）



オキナグサの花(左)と果実(右) (撮影:小野田裕介)

ほうぜん じ かや ば 逢善寺茅場の植物

2021年5月、茨城県稲敷市の湿地で植物観察をしていた際、シムラニンジンという植物の芽生えを確認しました。ニンジンの葉のように細く切れ込んだ葉の形が特徴的で、一目でシムラニンジンだと確信しました。県内で確認されている生育地としては、小貝川に次ぐ2例目。非常に希少な植物の発見となり、このときの感動は今も忘れられません。

この湿地は面積約6.72haと小規模ですが、かつては茨城県指定の有形文化財である逢善寺の茅葺屋根の葺き替え用の茅を集める茅場でした。しかし近年、茅場としての利用がなくなり、植生遷移が進んだ結果、茅の材料となる植物が減少してしまいました。このまま放置していると、茅場として使える場所ではなくなってしまいます。このことを危惧した茅葺職人や逢善寺の住職、茅場と湿地植生の研究者らが集まって、2020年から毎年冬に湿地で火入れを行い、植生の回復を試みる取り組みが始まりました。

火入れを始めた当初は、セイトカアワダチソウの多い場所はなかなか火が付かなかったものの、地上部の植生が一掃されることで、地面に日が当たりやすい環境が生まれました。それによって、ノウルシ、ヒキノカサ、チョウジソウ、ノハナショウブ、ナガボノワレモコウ、ホソバリンドウなど、明るい草地进行を好む希少な植物の生育が促されるようになりました。2021年7月にはシムラニンジンの開花も確認でき、毎年火入れを続けることによって、少しずつ、ヨシなどの湿生植物が復活してくるようになりました。

2021年から2024年までの植物相調査の結果、茅の材料になりうるイネ科、カヤツリグサ科、イグサ科

の植物が40種、さらに茨城県の絶滅危惧種13種（うち環境省指定7種）を含む計166種の植物が確認されました。また、群落別の植生調査によって、湿生植物群落の方が、セイトカアワダチソウ群落よりも植物の種数や絶滅危惧種の数が多いことが明らかになりました。

2021年5月には逢善寺の屋根の葺き替えの現場に立ち会う機会もありました。昔使用されていた茅の材料を確認したところ、イネ科のカモノハシが含まれていたことがわかりました。今のところ茅場ではカモノハシは見つかっていません。しかし火入れを続けることによって、今後復活してくるかもしれません。

これからの変化が楽しみな稲敷市の茅場の湿地です。博物館では地域の関係者と協力し、引き続き観察していきたいと思います。

（資料課 伊藤彩乃）



茅場に生育するシムラニンジンの花



逢善寺書院の屋根の葺き替え現場

原著論文：伊藤彩乃・松木 礼・川田清和・小幡和男・矢野徳也・西廣 淳（2024）. 茨城県稲敷市の茅場跡の湿生植物群落の植物相と種組成. 茨城県自然博物館研究報告, (27) : 25-38.

おさかな通信

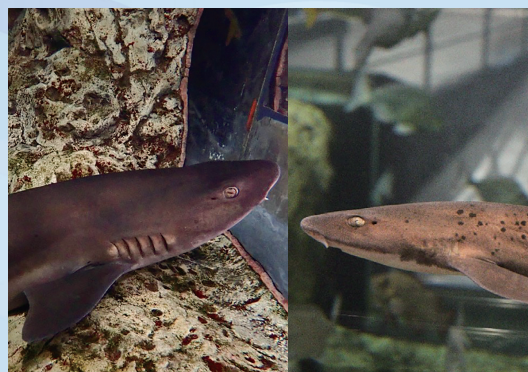
ドチザメのお引っ越し

ドチザメは最大で全長約 1.5 m になるサメで、性格は大人しく、茨城県の沿岸でもよく見られます。多くの水族館で展示されており、当館の「海の水槽」でも展示しています。

2021 年 9 月に展示をはじめた頃は全長約 70cm でしたが、約 3 年の時を経て、120cm ほどにまで成長しました。そこで、より広い水槽があるアクアワールド茨城県大洗水族館へ 2025 年 3 月に引越しをしました。今後は、水族館の大きな水槽で悠々と泳ぐ姿を観察することができるようかもしれません。

現在、当館の「海の水槽」には、全長約 60cm のドチザメが新たに仲間入りしました。今後の成長を見守っていただけると幸いです。

（水系担当 大坪美月）



今回水族館へお引っ越しをしたドチザメ（左）
新たに仲間入りしたドチザメ（右）

なるほど 博物館

いばレックスとコティランが
自然に関する情報を
わかりやすくお伝えします。



わあ!この石、すごく大きいね!
しかも中がむらさき色にキラ
キラ光ってきれいだね。これ、
なんていう石なの?

これはアメシストっていう
石で、“むらさき水晶”と
もよばれているんだよ。

水晶って、白いイメージだったけど…
むらさきもあるんだね!



コティラン

「アメシストドーム」

(教育課 佐藤一康) イラスト:ツク之助

うん、アメシストは特別
にむらさき色になった水
晶なんだ。

どうしてこんなキラキラしてる
の?むらさき色の理由も知り
たいな。



いばレックス

アメシストは、地下で長い時間をかけ
てゆっくり大きくなったから、こんなに
キレイな形になったんだよ。アメシス
トのむらさき色は、石の中に入ってる
鉄のなかまが、光をむらさき色に変え
ているんだよ。

なるほど、ゆっくり形ができ
たから、こんなにツブツブが
そろってるんだね!しかも、鉄
のなかまがむらさき色の理由
だなんて面白いね。
あの中にある、黄色いところ
はなに?



あれは“方解石”っていう石なんだ。アメシスト
といっしょにできた、ちがう種類の石なんだよ。

自然の中では、いろんな種類の石が
いっしょにできることがあるんだ。

じゃあ、ひとつの石の中
に、ちがう石がまざってる
んだ!すごい!



あるよ。アメシストのほかにも、茶色い“けむり水晶”や、
黄色い“シトリン”っていう水晶もあるんだ。それぞれ色が
ちがうのは、できるときひみつがちがうからなんだよ。

こんなきれいな水晶って、
ほかにもあるの?



えーっ!いろんな色の水晶があるんだ!ぼく、
もっと水晶のこと知りたくなってきたよ!

収蔵品紹介

和田尚幸コレクション

和田尚幸氏は茨城大学の鈴木昌友博士のもとで植物学を専攻され、その後、県立高校で教職に就きながら、茨城県において維管束植物の調査研究に尽力されました。特に、当館の第1次総合調査や、日立市や里美村(現常陸太田市)の植物誌の刊行に携わり、茨城県の植物相の研究に大きく貢献されました。

2006年に和田氏が亡くなられたのち、当館に所属していた茨城植物研究会により収集された標本の目録化が行われました。その後、2011年にシダ植物標本が寄贈され、さらに種子植物標本が追加で寄贈されました。寄贈された標本点数は約2万点におよびます。

寄贈された標本は、当館のボランティア植物チームにより台紙への貼り付けが行われ、収蔵庫に配架されました。全ての整理作業が終わるまでには約15年の歳月がかかりました。

常設展示室1階の「博物館のコレみて!」のコーナーで、7月まで和田氏のコレクションを紹介しています。この機会にぜひご覧ください。

(教育課 鵜沢美穂子)



展示中の和田コレクション

トピックス

①

むらさきいしよう きょだいしやうどう
紫水晶の巨大晶洞、
常設展示へ

第91回企画展「ミュージアムパーク30年のありったけーいつも自然博物館はおもしろい!ー」で展示されていた紫水晶の巨大晶洞がディスカバリープレイス（常設展示）へ移設されました。

第85回企画展「ときめく石一色と形が奏でる世界」でも展示されたこの標本は、どちらの企画展でも多くの来館者が写真を撮ったり、感嘆の声をあげたりしていました。幅が2m以上あり、重さも2t以上ある迫力ある巨大な姿と、紫色の水晶の美しさに、心を奪われた人も多いことでしょう。

この紫水晶の巨大晶洞は、岩石の中の空洞内に熱水が染み込み、溶けていた成分が結晶となったものです。よく観察すると瑪瑙、紫水晶、方解石の順番にできたこと

がわかります。

これからはいつでも観察することができますので、その迫力と美しさをみなさんが当館に来館されたときの思い出の1ページに加えてください。

（資料課 石塚勇太）



紫水晶の巨大晶洞

トピックス

②

日本固有種を見てみよう!

第5展示室「人間と環境」に新しく固有種のコーナーができました。「固有種」という言葉はなかなか耳慣れないかもしれませんが、固有種とは、分布が特定の地域に限定される種のことです。

今回のリニューアルでは、特に日本の固有種を紹介しています。南西諸島に分布するヤマタカマイマイのなかまは島ごとに異なる模様をもつことで知られています。

また、ニホンリスは、隣の外来種コーナーに展示されているクリハラリスと見比べてみるのもおすすめです。植物では皆さんに身近なサザンカを展示しています。サザンカは日本固有種で、関東でもよく見かけますが、実はこれは栽培されているもので、本来の自生地は四国、九州以西に限られます。

このコーナーは2025年の3月から公開しています。まだご覧になっていない方は、ご来館の際に、標本で固有種の姿かたちをじっくりと観察していただけたらと思います。

（資料課 世木田和也）



第5展示室「固有種」コーナー

トピックス

③

「茨城の磯の動物ガイド」を
出版しました!

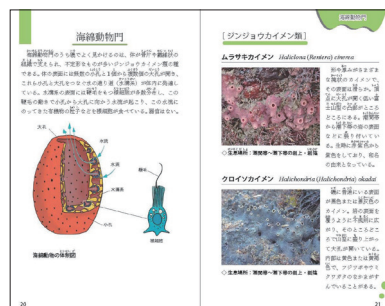
2025年3月、茨城の海産動物研究会と協働し、「茨城の磯の動物ガイド」(頁数111頁)を出版しました。本書は当館の総合調査の一環として、茨城の海産動物研究会がひたちなか市の海岸を中心に、茨城県沿岸で海産動物の分布調査を行ってきた成果が基となっています。本書では、海綿動物門、刺胞動物門、扁形動物門、環形動物門、軟体動物門、苔虫動物門、節足動物門、棘皮動物門、脊索動物門の9つの門からひたちなか市の磯で比較的普通に観察できる海岸動物約120種を取り上げ、写真と簡単な解説で紹介しています。今後、活用が期待される茨城県内の小中学校、高等学校などに配布する予定で

す。子どもたちに広く活用され、地元の海の生きものを知るための一助になれば幸いです。

（資料課 池澤広美）



「茨城の磯の動物ガイド」 カイメン類の頁



本冊子は船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けて作成されました。



ようこそ！ミクロの世界へ

肉眼では見えない“超ミクロの世界”を、自分自身で
のぞいてみませんか？

当館では、走査電子顕微鏡を体験できる展示「ミクロの世界を観察しよう」をリニューアルしました。来館者が走査電子顕微鏡を操作して、約20,000倍にまで拡大してミクロの世界を観察することができます。来館者が電子顕微鏡をいつでも自由に操作して観察することができる展示は、国内では当館にしかありません。

今回、メーカーとアプリケーションを共同で開発して、来館者がタッチディスプレイで電子顕微鏡を操作できるようになり、子どもから大人まで楽しめる展示となっています。ふだんは見えない髪の毛の表面や、植物の花粉の精緻な形、チョウの翅を彩る微細な鱗粉まで！まるで異世界を旅しているかのような光景が、あなたの目の前に広がります。

科学が好きな方はもちろん、初めての方でも安心して楽しめます。

自分の手で未知の世界を発見する！そんな特別な体験を、ぜひ当館で。あなたの好奇心をくすぐる冒険が、ここからはじまります。（資料課 前橋千里）



走査電子顕微鏡コーナー

今後の企画展紹介

どんぐり ～魅力に はまって さあたいへん♪～

2025年10月11日(土)～2026年1月25日(日)

子どものころから拾って遊び、童謡にも歌われる、身近な木の実がどんぐりです。どんぐりは丸いものから細長いものまでさまざま。小さなどんぐりは発芽し育つと、大きな木となり、豊かな生態系を支えます。かつては、私たちの人間の食べ物や燃料などの生活の糧となり、切っても切れない関係にありました。

そんなどんぐりをテーマに、このたび企画展を開催することになりました。親子連れの多い当館での開催にあたり、小さな子どもたちが楽しめるような工夫をいたるところにちりばめる予定です。本企画展を通して、身近などんぐりの魅力にはまっていただけたら幸いです。（資料課 伊藤彩乃）



どんぐりの芽生え（コナラ）

編集 後記

博物館といえば恐竜！…とよくいわれますが、今回の企画展は、恐竜時代の“恐竜じゃない生物”たちが主役です。「え、恐竜いないの？」と思われるかもしれませんが、恐竜のほかにも、その時代には魅力的な生物たちがいるんです。どうか、足を止めて見てくださいね。（S.K.）

【開館時間】 9:30から17:00まで（入館は16:30まで）

【休館日】 毎週月曜日

※休館日は異なる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。

URL <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/>



ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会

入館料が無料＆限定イベント多数！

家族会員 4,000円 個人会員 3,000円
子ども会員 1,000円 賛助会員 10,000円

※特典：イベントへの参加、ショップ・レストランでの割引

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しみ、誰もが楽しめるア・ミュージアム（アミューズメント＋ミュージアム）をめざしています。